

APRS用に輸入無線機 TM-D700E を使っています

JA1RBY 中山 和雄

ケンウッドのTM-D700(モービル機)とTH-D7(ハンディ機)は、海外ではAPRS仕様として販売されています。これらの機器を輸入すれば、APRSの運用が簡単になるのですが、アメリカ向けに作られているTM-D700AおよびTH-D7Aは、日本の144/430MHzの周波数割り当てと異なるために、TSS(株)による保証認定制度を使っての無線局免許申請ができません。

いろいろ探すうちに、ヨーロッパ仕様のTM-D700EとTH-D7Eならば日本の144/430MHzの割り当て周波数と同一であることがわかりました。TSSに聞いたところ、それならば保証認定の範囲内とのことで、TM-D700Eを輸入してAPRSを運用してみることにしました。

ヨーロッパ仕様のTM-D700Eをどこから輸入しようかとインターネットで検索すると、ドイツ語やフランス語のページ、価格もメールでの問い合わせなどいろいろありましたが、英語表示も選択でき価格も安いと思われるドイツのインターネット・ショッ

プから輸入することにしました。

オーダーのメールを送ったところ、すぐに返信がきて、日本の無線機をなぜドイツから買うのかという内容でした。英語が苦手なので四苦八苦しながら日本仕様との違いをメールしたのです

なんとかわかってもらえたのか、品物はドイツで開かれたHam Radio Showで売り切れたといわれ、受け取るまで3週間かかりました。

開梱して中身を確認すると取扱説明書が7冊あってびっくり。アンテナ・コネクタはN型になっており、電源コードには平型ヒューズが付いていました。付属のマイクがMC-45でちょっと残念。といいますのは、ケンウッドではTM-D700用にキー・パッド付きのMC-58DMというマイクが発売されており、この機種ならマイクから文字が入力できるためにAPRSのメッセージ入力などにたいへん便利なのです。MC-58DMは、後日在庫があった英国から輸入しました。

TM-D700Eは技適機種ではありませんので、TSSの保証認定を受けることで無線局免許を取得できます。日本仕様のTM-D700の取扱説明書を参考に工事設計書の記入をしました。加えて保証願書の送信機名称には“TM-D700E”と記入し、送り状のコピーと本体の写真(機種名、シリアル・ナンバを含む)を添付して変更申請書を提出したところ、約3週間で無線局免許状が届きました。



写真4-A ヨーロッパ仕様のTM-D700Eのパッケージ

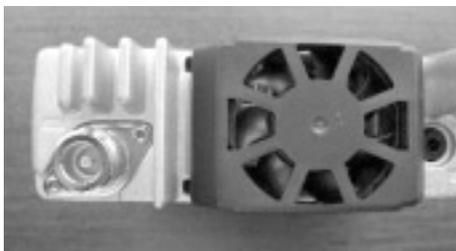


写真4-B アンテナ・コネクタはN型が使われている



写真4-C この後にハンディ機のTH-D7Eを輸入したが、付属していたACアダプタは230V仕様だった



写真4-2 GPS情報をAPRSフォーマットの信号に変換するトランシーバとのインターフェース“Tiny Trak3”を使ってAPRS位置情報を送信する方法もある



写真4-3 市販の気象センサをAPRSと接続することができる
〔写真提供=Davis Instruments Corp. (<http://www.davisnet.com/>)〕

が望まれます。

TM-D700E, TH-D7Eは海外向けですが、輸入して所定の手続き後、日本国内で利用することが可能です(コラム参照)。

③ 移動局運用

パソコン+TNC+トランシーバ+GPS受信機(自局位置座標を得るため)の構成です。GPS受信機から得られた自局位置情報(座標)を含むビーコンを送出しながら移動することにより、他局がその位置を知ることができます。移動局用にはパソコン+TNCを超小型にした機器(TinyTrak3)が開発されており、これを用いれば手軽に移動局ビーコンを送信することができます(写真4-2)。

④ その他(気象情報局)

海外では一般家庭向けの安価な気象観測用のセンサ(写真4-3)が市販されています。これを自宅に設置し、得られたセンサ情報をAPRS情報として発信することも可能です。

日本でも輸入してAPRSに使用している方がいます。

■ 各機器の接続

図4-9が一般的なAPRS運用局の構成と接続です。機器ごとに説明していきましょう。

・パソコン

パソコンはとくに高性能なものには必要ありません。後で紹介するAPRS用のソフトはWindows98でも